

日本鉄鋼協会記事

編集運営委員会

第5回委員会 開催日: 11月22日. 出席者: 松下委員長, ほか11名.

1. 和文会誌分科会, 欧文会誌分科会, 講演大会分科会, 出版分科会より活動報告がなされた.
2. 50年度予算に関して, 中間報告が行われた.
3. 俵論文賞選考に関して, 検討がなされた.

第9回和文会誌分科会 開催日: 11月13日. 出席者: 松下主査, ほか16名

1. 22件の論文について審査報告がなされ, 修正依頼5件, 掲載決定17件であった.
2. 「鉄と鋼」第61年第3号に, 論文9件, 技術報告1件, 技術資料1件, 計11件が掲載されることに決定した.

第9回欧文会誌分科会 開催日: 11月21日, 出席者: 橋口隆吉主査, 他12名

1. 16件の論文につき論文審査報告がなされた.
2. 「鉄と鋼」60年13号からの勧誘論文の選定は検討中, 「鉄と鋼」以外の学協会誌, 会社刊行誌からは3件の研究論文とし1件のReportについて投稿を勧誘することになった.

共同研究会

昭和49年度

第1回運営委員会 開催日: 10月21日. 出席者: 作井会長, ほか24名

1. 昭和50年度共同研究会予算案を審議し, 事務局提出案が承認された.
2. 人材開発センターより依頼のあつた, 通信教育のテキスト作成について, 部会長または主査の会社を中心に執筆を引受けることとした.
3. 島田調査部会長から鉄鋼国際化問題検討会について, バックアップを要望された.
4. 田中研究委員長より共研のテーマの中から基礎的な問題があつたら紹介していただき, 基共研に反映させたいとの要望があつた.

第2回総務幹事会 開催日: 10月14日. 出席者: 伊木幹事長, ほか24名

1. 昭和50年度共研予算案を審議して, 事務局提出案が承認された.
2. 共同研究会の運営に関して, 講演謝礼, 資料の事前配布, 小委員会の運営について, 意見交換を行った.
3. 部会, 分科会の昼食費を500円1人1日とすることとした.
4. 人材開発センターより依頼のあつた, 通信教育のテキスト作成について, 検討を行ったが, 運営委員会の決定に従うこととした.

鉄鋼分析部会

第35回部会 開催日: 10月25日. 出席者: 池野部会長, ほか77名

1. 化学, 発光分光, 蛍光X線, 鋼中非金属介在物分析の各分科会主査より経過報告がなされた.
2. ISO/TC・102/SC 2の第7回国際会議報告があつた.
3. 部会に先だつて, 鋼管の宮津氏により, JIS Z 8402-1974 分析試験の許容差通則の解説を特別講演を行なつた.

第25回発光分光分析分科会 開催日: 10月24日. 出席者: 井樋田主査, ほか46名

昭和47年以降, 検出限界について実験を行なつてきた18元素につき, 実験結果の整理を完了し, 第25回分科会で報告した. 微量元素における含有率と分析精度の関係が明りようとなり, 分析値に対する定量的な評価が得られた.

T・Al予備放電時間に関する共同実験結果のまとめも完了し, 予備放電時間の延長で精度は向上することが判つたが, 対象試料が限定されているため実用的な面では若干問題があるので, 現段階では今後の参考資料とすることにした.

予備放電に関する今後の共同実験については現行JIS法の予備放電時間を検討するために小委員会作成の実験要領に基づき, 代表的な成分(CPS)につき32事業所が参加して, 昭和49年11月より共同実験を開始することになった.

第26回蛍光X線分析分科会 開催日: 10月23日. 出席者: 川村主査, ほか43名

第25回分科会以後, 2回の小委員会を含め, 融解法による鉄鉱石蛍光X線分析法の共同実験, 総合吸収補正係数dj共同実験結果のTrans. ISIJへの投稿および今後の運営などについて討議した.

1. 融解法についてはガス加熱, 電気炉加熱, 高周波加熱の三方法により $\text{Na}_2\text{B}_4\text{O}_7$ の温度, 加熱時間, 攪拌を中心とした実験を行ない共通に確認できる範囲が定まつたので, この確認範囲での分析方法案を作成し, これをもとに分科会レベルでの共同実験を行なうこととした.

2. 今後の研究課題としては異形試料の蛍光X線分析値への影響など問題について, ワーキング・グループによる活動を加味していくことにした.

第34回化学分析分科会 開催日: 9月6日. 出席者: 岸高主査, ほか47名

1. 岸高主査就任の挨拶
2. JIS鉄鋼化学分析法アンケートの集計方法について審議した. (集計結果は10月の分科会に提出)
3. 鉄鋼化学分析
Si…モリブデン青吸光光度法の検討
S…S分析小委第3回会議報告

W…チオシアン酸アンモニウム 吸光光度法 TPAC 抽出吸光光度法の検討

N…湿式法と乾式法の検討

Nd…スルホクロロフェノール S 吸光光度法の検討

4. 鉄鉱石分析

全鉄…ヨウ化カリウム・チオ硫酸ナトリウム滴定法、インジゴジスルホン酸による方法の審議

5. 原子吸光分析法編集委、ISO、標準試料委報告

第38回鋼中非金属介在物分析分科会 開催日：10月23日。出席者：宮本主査代行、ほか22名

第36回（昭和49年6月6日）、第37回（昭和49年8月30日）にわたり、鋼中窒化物抽出分離定量法に関する共同実験を進めてきたが、Fe-Ti-N系およびFe-Ti-C-N系試料に関する共同実験は一応終了することとし、さらに細部については自発的に検討することにした。

Fe-Zr-N系およびFe-Zr-C-N系試料については予備実験を各所でおこなって再度共同実験を実施すること、およびFe-Zr-N系の急冷試料を共同実験対象試料として追加することになった。

Fe-V-N系、Fe-V-C-N系、Fe-Nb-N系およびFe-Nb-C-N系試料の配布がすみだい第2回共同実験を実施すること、および抽出残渣中のN分析法をビスピラゾン吸光光度法に統一することにした。

熱経済技術部会

第55回部会 開催日：10月8、9日。出席者：片田部会長、ほか80名

1. 昭和48年度エネルギーバランスまとめ 一貫工場21事業所で 980×10^{12} kcal/Y、非一貫工場11事業所 16.2×10^{12} kcal/Yであった。

2. 統一議題「鋼材強制冷却について」、「燃焼管理システムについて」「それぞれ17事業所より報告があった。

3. 統一議題「加熱炉均熱炉の熱量原単位の実績と改善」について、12社（加熱炉195基、均熱炉302基）からのアンケート結果が発表された。

4. 自由議題として「高炉炉底冷却について」、「プロポーショニングオイルバーナーのon-off燃焼制御使用」「熱設備改善事例」、「千葉製鉄所熱風炉計算機制御について」、「連続熱処理設備酸化炉熱量原単位低減対策」、「ふく射式レキュペレーターを備えた210 T/H WB炉の操業経過について」の6件が報告された。

計測部会

第58回部会 開催日：10月17、18日。出席者：野坂部会長、ほか128名

1. 次回より小委員会活動を一時中止して、共通テーマを設けることになった。

2. 新温度標準実施検討グループ報告、昭和49年9月の熱電対と補償導線のJIS改正による影響やその対処方法などが検討された。またメーカー側の体制も調査された。

3. 合計23件の一般研究報告がなされた。

4. 工場見学

住金・鹿島の製鋼工場と厚板工場。

原子力部会

第8回第2小委員会 開催日：10月16日。出席者：高橋委員長、ほか14名

1. 高橋愛和新委員長挨拶

2. 2小委の活動方針について委員以外の関係者にもアンケート形式で意見を求めることになった。そのアンケートの文面の作成が岡部幹事の案文をもとにして行われた。アンケートは11月中旬に発送の予定である。

3. 2小委で今後何を取り上げるか、出席者間で自由討論した。

必ずしも原子力エネルギー利用にこだわらず、広く直接製鉄技術の検討を行なっていくことで意見の一致をみた。

4. 委員長直属幹事変更

岡部（川鉄）→八木（東北大）

標準化委員会

ISO鉄鋼部会

第33回SC4分科会 開催日：11月8日。出席者：清水主査、ほか13名

1. 国際会議対策協議

昭和49年12月2～6日開催のISO/TC 17/SC 4の審議原案、チエン用鋼、ステンレス鋼、耐クリープ鋼および合金、耐熱鋼および合金、工具鋼について検討し、日本コメントを作成した。

第5回SC15分科会 開催日：10月21日。出席者：青木、ほか12名

1. 国際会議対策

昭和49年11月26～28日開催のISO/TC 17/SC 15（レールおよび同付属品）の審議議案（フランス修正案）について検討し、JISおよび国鉄規格をベースとした日本コメント案を作成した。

日本代表として、国鉄、新日鉄、鋼管の3社が選出された。

第2回TC5分科会 開催日：10月23日。出席者：金井、ほか10名

一般配管、ボイラ管、ステンレス鋼管の標準寸法をISOの標準寸法に統合できるかどうかを検討するため、ISO、ASTM、BS、JIS'の比較表を作成して審議したが、とくに5インチから12インチ管に大きな差異があり、さらに調査検討することになった。

第44回特殊鋼分科会 開催日：10月31日。出席者：岩村主査、ほか15名

1. 機械構造用鋼のJIS記号体系

機械構造用鋼のJIS記号に炭素量表示を加味した。記号小委員会の3つの案について、各社の意見を徴取した。その結果はできるだけ桁数が少ないことが希望されたので、2案3案に、こだわらず、弾力性のある考え方を自工会に提示し、記号小委員会で煮つめることにした。